

コラムを読み解く(中学・国語)

()中学校()年()組 氏名()

南風録

作家重松清さんの「おまもり」は、中学2年生女子の視点で書かれた短編だ。彼女の父親は、車で人をはねて死なせてしまった過去を持つ。毎年命日に墓参りをし、遺族に謝罪しようとするが、門前払いされ続けている。▼主人公は父親が背負う心の重荷を感じている。そんな時、同級生が自転車同士の衝突で骨折してしまう。現場から立ち去った相手を「犯人」とののしるその子に話を合わせながらも、「犯人」の言葉に胸を細い針で刺される思いをする▼鹿児島県内は昨年、交通事故で53人が亡くなった。200人を超えていた1970年前後と比べればかなり少ない。とはいえ、前年より13人も増えた▼自動ブレーキや急発進防止装置など、車の安全機能や装備は年々充実している。全国の昨年の死者は前年比15人減の2663人で、統計のある48年以降3番目に少なかった▼全国的な減少傾向に沿わない昨年の県内の状況は、危機感を持って受け止めねばなるまい。夜間、歩行者が犠牲になる事故が目立つという。県警が呼びかけている夜光反射材の着用など、自己防衛を心がけたい▼統計の数字は、犠牲者とその家族の悲しみや憤りが積み重なってできている。責任感や反省の色を見せない者もいるやに聞くが、人生が一変するのは加害者とその家族も同様だろう。細い針で刺される心の痛みを知る子どもを増やしてはならない。

2025年1月13日付1面

【問1】 2023年と2024年の鹿児島県の交通事故死亡数を書きましょう。

- ・2023年()人
- ・2024年()人

【問2】 鹿児島県ではどのような交通事故が多いと述べられていますか。

【問3】 問2の対策として、県警はどのようなことを呼びかけていますか。

【問4】 「細い針で刺される心の痛みを知る子ども」とは、冒頭のどの人物を指していますか。

【考えを書きましょう】 交通事故を減らすためにどのようなことが必要だと思いますか、あなたの考えを書きましょう。

* 習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

彼女(かの・じょ)

門前払(もん・ぜん・ばらい)=用事で訪ねて来た人を、会わないで帰すこと

衝突(しょう・とつ)

刺(さ)される

超(こ)え

充実(じゅう・じつ)=内容が満ちて豊富なこと

傾向(けい・こう)=ものごとが、ある方向に傾いているようす

状況(じょう・きょう)=ようす

犠牲(ぎ・せい)=災難や事故で死んだり、不幸な目に遭ったりすること

憤(いきどお)り=腹を立てること。いかり

